



THE PHENOMENOLOGICAL ASSOCIATION OF JAPAN

日本現象学会事務局

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 7 丁目
北海道大学大学院文学研究院 田口茂研究室
E-mail : paj-office@pa-j.jp 郵便振替 00980-9-109153

事務局便り

2025 年 3 月

日本現象学会会員各位

拝啓

春暖の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

現象学会委員の皆様および会員の皆様には、様々な形で事務局運営上のご支援とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。2025 年度の大会は、11 月 2 日（日）・3 日（月・祝）に岡山大学で開催する予定であります。次回も実り豊かな大会になることを祈念しつつ、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

敬具

1. 事務局便り、研究大会プログラムの電子化についてのお知らせ（継続）

今後、移行期間を経て、事務局便りおよび研究大会プログラムは、電子メールにて配信することになります（総会決定事項）。会員の皆様におかれましては、必ずメールアドレスの登録をお願いいたします。メールアドレス登録は、下記の Google フォームから行ってください。

<https://goo.gl/forms/G3ziknS3PMqnz2nt2>

入力フォームには、右の QR コードからもアクセスできます。現象学会ホームページ上にもリンクがあります。



当面は移行期間として、事務局便りはメール送付、プログラムと振込用紙は郵送、という体制で行います。今回、こちらの事務局便りが郵送で届いた方は、有効なメール登録ができておりませんので、速や

かにメール登録をお願いいたします（登録がない場合、今後学会からの連絡が届かなくなりますのでご注意ください）。

2. 住所変更について

所属や住所等に変更があった方は、同じく上記の Google フォームを用いてお知らせください。（住所は事務局業務にのみ使用します。）

3. 第 47 回研究大会個人研究発表・ワークショップ募集

第 47 回研究大会は、2025 年 11 月 2 日（日）・3 日（月・祝）、岡山大学での開催を予定しています。東アジア現象学会議と一部合同で行うことを検討しています。

（1）個人研究発表の募集

個人研究発表を希望される会員は、以下の要領で発表要旨を作成の上、Word ファイルを添付し、電子メールにて事務局へ提出してください。

外国語（英語・ドイツ語・フランス語）での発表も可能です。

個人研究発表要旨応募要領

① 字数制限（厳守）：

（日本語発表の場合）A4 版用紙 2 枚（2400 字）以内

ページのフォーマット：40 字×30 行×2 枚

（外国語発表の場合）A4 版用紙 2 枚（字数 800 語）以内
参考文献は字数に含みます。また、文字数・フォーマット両方の規定を厳守のこと（参考文献・注もフォーマットに従ってください。）

② タイトル・氏名など：

別紙により、タイトル・氏名・連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）・所属を必ず記載してください（枚数・字数に含まず）。

期限・送付先：

2025 年 5 月 31 日（土）（期限厳守）

事務局（paj-office@pa-j.jp）宛

③備考

- ・発表の可否は、委員による審査の上、7 月下旬頃までにご連絡致します。（7 月中に連絡がない場合には、事務局まで確認の連絡をするようにお願いします。）
- ・発表可となった発表要旨は、日本現象学会のHP上で公開します。
- ・発表要旨のタイトルを研究大会での発表の際に変更することは認められませんのでご注意ください。ただし、副題を添えるなどの変更は認められます。
- ・個人研究発表時間は 30 分です（質疑応答は別に 15 分）。

（2）ワークショップの募集

ワークショップ（萌芽的・実験的テーマに関する共同研究）を会員から募集いたします。以下の要領で発表要旨を作成の上、事務局へ **Word ファイルを添付の上、電子メール**にて提出してください。

ワークショップ応募要領

①企画案：

題目、オーガナイザ〔幹事〕名（所属）、提題者名（所属）、要旨（各提題者の発表内容を含む）を A4 版用紙 1 枚（字数 1600～2000 字程度）にまとめてください。別途（A4 版 1 枚）表紙に、オーガナイザの方の連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）を記入してください。

③ 期限・送付先：

2025 年 5 月 31 日（土）（期限厳守）

事務局（paj-office@pa-j.jp）宛

③備考

- ・オーガナイザ（1 名）は日本現象学会会員に限ります。
- ・提題者は非会員でも構いません。提題者の人数に制限はありません。なお、オーガナイザと提題者がすべて同じ所属であることは認められません。
- ・ワークショップの時間は、原則 120 分です。
- ・発表の可否は、委員による審査の上、7 月下旬頃にご連絡いたします。
- ・ワークショップ報告書（10,000 字）が、『年報』42 号（2026 年 11 月刊行予定）に掲載されます。

（3）大会時の旅費の一部補助について

- ・当学会では、遠方から大会に参加し発表する、大学院生・非-常勤研究者の会員に、旅費の一部を補助しています。旅費補助は、自身の発表がない方の大会日に運営の手伝いをしてくださる方を対象とします。希望者は、大会個人発表およびワークショップの応募時に、事務局までその旨ご連絡ください。締め切りは発表要旨の締め切りと同じ、2025 年 5 月 31 日（土）です。

対象：大学院生、非 - 常勤研究者、かつ大会で発表する会員（ただし、科研費や学振等の補助金を受託している者を除く）。かつ、遠方から参加する（参加のために宿泊を伴う）会員。

4. 「研究奨励賞」について

2024 年度の研究奨励賞は該当者がありませんでした。

- ・各年度の受賞に当たっては編集委員会で下記の条件のもとに選定の審議が進められます。

①受賞審査対象は、当該年度の投稿論文とする。

②受賞者の資格は、40 歳以下（研究大会当該年度 4 月 1 日現在）とする。

③副賞として、金二万円を贈呈する。

④希望者は英文訳を翌年の『年報』に掲載できる。ただし、著者が英語を第一言語としない場合は、かならずネイティヴチェックを受けたうえで、そのことを証明する書類（書式自由）を添付すること。また、ネイティヴチェックや翻訳の費用は著者の負担とする。

⑤希望者は北欧現象学会若手枠への推薦を受けられる。

5. 『現象学年報』印刷版の有償配布制度について

『現象学年報』は電子版に移行しましたが、希望者には印刷版を配布してきました。しかし、ここ数年は執筆者以外の購入者はなかったことから、今後は購入可能者を執筆者に限るという方針が決まりました。41 号の発行時点で執筆者以外に購入希望者がいなかった場合、42 号から印刷版の購入を執筆者に限ることにいたします（総会決定事項）。

6. 学会費納入のお願い

17 日（日）11:45～13:00

2024 年度までの学会費をまだお支払い頂いていない方は、早急に納付頂きたく存じます。

事務局便りをメールで受けとった方は、メール本文に書かれている未納額をお支払いください。

事務局便りを郵送で受けとった方は、封筒に添付された宛名ラベルの右下に記載された数字をご覧ください。これが未納金額を示しています。ご確認の上、お振り込み下さい。同封した郵便振替用紙もご利用頂けます。

未納額 0 の方も、2025 年度の会費を早めにお支払いください。

本学会は 4 月～3 月が会計年度となっています。本年度で退会される方は、3 月中に退会届をご提出いただきますよう、お願いいたします。4 月以降に退会をお申し出いただいた場合、2025 年度の会費を請求させていただきます場合があります。

会費未納 3 年（未納額 9000 円以上）で納入督促、未納 5 年（未納額 15000 円）で強制退会（未納分を納入しない限り再入会不可）となりますので、会費を滞納されている方はご注意ください。

本学会は年額 3000 円という破格の学会費で運営されていますが、近年非常に困難な財政事情にあり、常勤職に就いている会員の会費値上げを委員会で検討しております。決定した場合、11 月の大会時の総会で承認をお願いすることになります。

9. 『現象学年報』のバックナンバー

HP 上 (<http://pa-j.jp/pg104.html>) で 40 号（2024 年）までのバックナンバーの PDF を公開しています。

10. 会員異動のお知らせ（以下敬称略）

- ・入会（2024 年度新入会者：15 名）
- ・退会（2024 年度退会者：8 名）

会費滞納除籍（2024 年度：5 名予定）

5 年以上滞納の方が 3 月中にご連絡いただけない場合、自動的に除籍となります。

11. 委員会議事録要旨

日時：2024 年 11 月 16 日（土）12:30～13:40

場所：北海道大学学術交流会館 第 2 会議室

出席者（敬称略）：

16 日

池田、石原（孝）、植村、小手川、榊原、田口、長坂、三村、村上、吉川【事務局員：宮崎】

17 日

池田、植村、小手川、榊原、田口、中澤、長坂、三村、村上、吉川【事務局員：宮崎】

議題

1. 各委員会からの報告

- (ア) 企画実行委員会（今年度活動報告ほか）
- (イ) 編集委員会（年報 40 号発行報告、研究奨励賞該当なし）
- (ウ) 国際交流委員会
ドイツ現象学会との交流：隔年で派遣。
韓国現象学会との交流：交渉中
北欧現象学会派遣者決定：シニア：八重樫氏 ジュニア：山崎諒氏

2. 2023 年度決算報告ならびに監査報告 承認された。

3. 2024 年度予算案 承認された。

4. 2024 年度大会について

- (ア) 開催校：岡山大学：東アジア現象学会議と一部合同
- (イ) 日程：11 月 2 日（日）・3 日（月・祝）

5. 総会議題について：承認された。

6. 『現象学年報』印刷版の有償配布制度について 購入可能者を執筆者に限る。

⇒ 41 号の発行時点で執筆者以外に購入希望者がいなかった場合、42 号から印刷版の購入を執筆者に限る。

7. 『現象学年報』投稿期限の固定について

42 号から期限を 12 月 15 日に固定

8. 丸善『現象学事典』編纂について

「日本現象学会編」とする ⇒ 総会で審議し承認

9. 事務局便りメール送付切り替え

事務局からの連絡をメール主体に移行する旨を

改めて会員に通知。メール登録を求める。

⇒ 郵送は年 1 回、大会プログラム発送の時だけにする。

春の事務局便りメール送付。アドレスの登録がない会員には当面紙面で郵送。

10. 大会発表要旨の査読体制について
2 名体制に変更。スプレッドシート利用
11. 会費の値上げについて：検討を開始
12. その他：編集委員会から：投稿規定の改訂が必要：
共著論文の投稿を考慮。
次回事務局：明治大学